

# 吳看 国際感覚を養う

吳医療センター附属吳看護学校

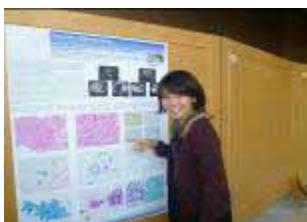
<日韓細胞診学会に参加して>

47回生 野田祥子

11月4～6日にかけて、韓国のプヨ・リゾートで行われた日韓細胞診学会に出席しました。



学会では、医師の先生方の研究成果を英語で発表しました。谷山先生からいただいた原稿を、自分たちで和訳し、英語の先生の指導のもと発表の練習を行いました。講演発表では緊張し読み間違えたりしましたが、韓国の方が温かく聞いてくださったので、和やかな雰囲気の中で終わることができました。先生方からは、決められた時間内に発表ができ、学会を盛り上げることができたと言って頂きうれしかったです。また韓国の代表の方からもお褒めの言葉をいただくことができ、貴重な体験ができたとともに達成感も味わうことができました。他の先生方の発表も聞き、内容は難しかったのですが自分たちが勉強した単語がでてきたことで少しでも分かったような気がして興味を持って聞くことができました。学会以外の韓国の方々との交流では言葉が通じない面もありましたが、身振り手振りを交え、楽しみながらコミュニケーションをとることができました。



学会後に景福宮、百済文化団地や国立博物館へ行き、長い歴史のある韓国の文化に触れることができました。その中で行った若返りの水がある場所では、教員の先生が一番ノリノリでした。韓国での食事はブルコギやキムチ、その他骨付きカルビなど焼き肉、海鮮鍋を楽しみました。それ以外の時間では韓国ならではの蒸しエステにも行きお肌はつるつるになりました。

若返りの水!?



帰りの空港では、ペアルックの多さに驚き、数えてみると 48 組もいて韓国人ならではの愛情表現のストリートさも日本との違いを感じました。

この3日間で私たちは多くの体験をすることができました。これも学校長先生をはじめ谷山先生、たくさんの方々の支援があったからこそだと感謝しています。今度は、海外で自分たちの看護の領域の研究を発表したいなと思いました。

ペアルック  
だ・・・



### < 呉国際医療フォーラムに参加して >

~ 司会を担当して ~ 48回生 石本唯

この度行われた K-INT で、私たちは司会を担当し、英語と日本語を分担しました。大勢の先生方が来られ声を会場の端まで届けようと大変でした。始まる前、「NHKのアナウンサーを目指しなさい。」とご指導いただき、その言葉を胸に司会を務めました。

学会の内容は、手術の映像や写真などとても勉強になりました。他の学生も見たとことのない映像に関心を持っているようでした。学生にもこの様に参加する機会を頂き、貴重な体験に心から感謝申し上げます。



～お茶席でのおもてなし～ 48回生 中山明日香

私たち茶道部は、海外のゲストの方に対して日本の文化に興味をもっていただきたいとお茶席を行いました。茶道の文化は古くから伝えられており、難しい日本語の意味を英語で表現するのは大変でしたが、写真や、身振り手振りなどを織り交ぜて英語で茶道のこころを伝えようと頑張りました。部員一同で協力し通訳の方や先生方にサポートを得ながら海外のお客様と交流をすることができました。部員一同でパンフレットやお茶菓子を食べるための楊枝入れを作ってプレゼントをしたところ、とても喜んでくださり嬉しかったです。コミュニケーションの難しさ、大切さを改めて学ぶことができました。



～閉会セレモニーでの応援団演舞を終えて～ 48回生 大兼政智子

呉看護学校応援団は、英語による応援団の説明をし、演舞を披露しました。私たち応援団は、外国で想像されるチアリーダーの応援とは異なり、日本の男子が着る短ラン、ボンタンを着て、派手な化粧で低い声を出し、列をそろえ、技を決めて踊る美しい演技だと英語で説明しました。スピーチは事前に英語の先生に相談指導をいただき、何度も練習しました。うまく伝えられるかととても不安でしたが、笑顔であいづちをうち聞いていただきとてもうれしかったです。

演舞は、今年度広島県下看護学校スポーツ交流大会で5連覇で優勝した時の演舞を披露しました。ゲストの方は、最初はとてもびっくりした様子でしたが、技が決まるたびに歓声をあげ拍手をいただいたり、とても真剣に演舞をみていただきました。演舞を終えたときに見えたゲストの皆様の表情は、笑顔でとても喜ばれた様子でした。今回のKINTでは、団員みんなで一致団結して練習した演舞を様々な国から来られた外国のゲストの皆様の前で披露させていただきました。呉の文化を伝えることができ、外国のゲストの皆様にもとても喜ばれたのでよかったですと感じています。



~閉会セレモニーでのハンドベル演奏~ 48回生 野村愛味

私たち48回生のハンドベルの活動は今年から始まりました。46回生の先輩達を受け継いで、学校祭、そして今回のKINTでの演奏をさせていただきましたが、まだ始めたばかりで不安もあり、とても緊張しました。ゲストの方に楽しさ・笑顔を伝えることを目標に「アンパンマンマーチ」と「星に願いを」を演奏しました。歌を歌いながら演奏するという工夫をして楽しさを表現しました。演奏している間、皆さんの顔を見てみると笑顔で手拍子で聴いてくださる方もいました。その瞬間とても心が温かくなり、幸せな気持ちになりました。英語でコミュニケーションをとるのは難しいですが、ハンドベルの演奏を通して外国の方々と触れ合えたことが何より嬉しく、楽しさを共有できいい思い出になりました。また今回のような機会があれば是非参加したいと思います。



~宮島観光ボランティアに参加して~ 48回生 黒瀬理子 神田衣美

私たちは、ゲストの方たちを宮島にご案内しました。バスの中ではゲストの方と、英語でのコミュニケーションで、レクリエーションを行い、宮島紹介をしました。

宮島に着くとガイドさんが出迎えてくれ、宮島の案内をしてくださいました。大鳥居の大きさにゲストの方は大変驚き、記念撮影や色々質問され、宮島に大変興味を示されていました。私たちはガイドさんの日本語の説明を英語に身振り手振りを加え、わかる範囲でゲストの方に通訳しました。また、昼食はあなご飯で、ゲストの方とおいしくいただきました。昼食後は自由行動で、ゲストの方はあげもみじなどの宮島の名産品を召し上がったり、お土産をみたりと宮島を満喫されていました。

英語でのコミュニケーションは難しいと思いがちですが、身振り手振りと簡単な英語で伝わるのだと感じました。ゲストの方たちも宮島に関心を寄せられてよかったです。私たちも終始笑顔で交流を楽しむことが出来ました。これからも他国の人と交流する機会もあると思うので、今後も笑顔を忘れず、コミュニケーションを行っていききたいと思います。



宮島名物穴子飯



## Our Student Life in THAILAND

独立行政法人国立病院機構呉医療センター附属呉看護学校

47 回生 大坪栄里 倉津智美

今回、タイのラジャピヂ病院に看護学生が 8 月 16 日から 22 日まで 5 泊 7 日で短期留学をするという機会を頂きました。タイではラジャピヂ病院の見学実習、クイーンシリキッド病院での学会聴講、タイの伝統的な建造物の見学などを行いました。



写真 1: 裏口からの病院の外観です。病院全体はこの建物の倍以上の大きさです。



写真 2: ラジャピヂ病院でお世話をして頂いた看護師の方々と記念撮影をしました。後ろの扉の奥には、看護部長室等が並んでいます。

ラジャピヂ病院では、主に救急部の見学を行いました。ラジャピヂ病院の救急センターには、トリアージエリアという場所があり、1人の看護師が救急外来に訪れた患者さんの病気の状態に応じて 3 つのレベルに分けています。毎日多くの患者さんが訪れるため、医師が診察を行う前にトリアージが必要であり、入院が必要な患者さんであっても、病棟に空きがないため入院することができない現状があります。そのため、救急外来の中にある観察室 (Observation room) で一時的に入院してもらっています。観察室は 30 床の病室ですが、患者さんの人数が多いためベッドが無く、病室の出入り口などのスペースにストレッチャーを置き、休んでいる状況です。日本では見ることのない光景を目の当たりにし、救急医療の在り方について改めて考えさせられました。

また、ラジャピヂ病院には EMSS という救急システムがあり、病院内に何台もの救急車を持っています。このシステムは、病院敷地内にあるコールセンターに 1669 番(日本の 119 番にあたる)の通報が入ると、医師 1 名、看護師 1 名、救急救命士 2 名の 4 人 1 組のチームが救急車で現場に向かい、処置をしながら患者さんを病院に搬送するシステムです。簡単にいうと、日本でいうドクターヘリの車バージョンのようなシステムです。救急車にはさまざまな医療機器・機材・薬品などが積まれ、その管理は救急看護師が 2 回 / 日行っています。このシステムでは、病院に着いてから処置を行うのではなく、現場で処置を受け

ることができるため、1分1秒を争う患者さんの命が助かる確率が高くなります。交通量の多いタイでは事故も多く、このシステムは実に有効であると感じました。



写真3: ラジャピチ病院敷地内に待機している救急車です。窓ガラスに表示されている番号“1669”は、日本の119番にあたるものです。EMMSに通報が入ると、医師・救急看護師・救急救命士で構成されるチームが救急車に乗り込み、現場に向かいます。



写真4: 看護師の後ろ姿です。日本ではナースキャップを着用しない病院がほとんどですが、タイの病院では看護師はみなナースキャップを付けて働いています。髪をまとめるためのネットも飾りのついたもので、おしゃれを楽しんでいます。

タイの伝統的な建造物の見学では、ウィマンメーク宮殿や王宮、エメラルド寺院に行きました。タイでは、神聖な場所では足を隠す習慣があるため、短パンやスカートをはいている場合は入り口で布を購入（もしくはレンタル）し、腰に巻き付けて足を隠してから入場しなければなりません。建造物の見学や観光をとおして、タイの伝統的な文化に触れ、タイの国柄を知ることができました。



写真5: ウィマンメーク宮殿と庭です。このような神聖な場では肌を露出させてはならない為、女性は適切な長さのドレスまたはスカートに袖のあるトップスを着用する必要があります。



写真6: アナタサマーコム宮殿です。宮殿内には伝統的な製法で作られた芸術品が展示されています。以前は国会議事堂として使われていましたが、現在では一部が迎賓館として利用されています。

タイは“微笑みの国”と称されるように、タイの人々の笑顔はとても温かく印象的です。今回お世話になったラジャビチ病院スタッフの方々も同様、私たちにいつも温かい微笑みを向けてくださいました。現地でのコミュニケーションについては、タイ語は難しいため、身振り手振りを交えた英語でやりとりをしました。語学力はまだですが、今後もっと英語を勉強し、様々な国の医療の現状を知ることができたら良いなと思います。

また、3月11日の東日本大震災では、タイからも日本語が話せるドクターが救援に来てくださったそうです。国を超えた関わりがとても大切であると感じました。今回学んだことを看護師として働くようになってからも忘れることなく、日々精進していきたいと思います。

～タイ洪水被害によせて～ 学生自治会長 黒瀬理子

私たちの主な実習施設である呉医療センターは、タイのラジャビチ病院と姉妹縁組がなされています。毎年7月に行われる呉国際医療フォーラム(KINT)にも、たくさんの方が参加されています。

今年は、バチラ先生、アチット先生に『消化器内視鏡検査・治療に伴う看護について』の特別講義をいただきました。

お世話になった先生の国、タイで7月に発生した洪水は、規模が拡大し続けており、物資の確保が困難になるのではないかと心配しています。私たち学生自治会として、何かできることはないのだろうかと考え、呉医療センターと連携しわずかではありますが、募金を行わせていただきました。

すると、タイから思いがけないお礼のメッセージをいただきました。何枚ものお花の写真に英文のメッセージが添えられていました。なんて書いてあるのだろう、早速和訳をして、学生全体に伝えました。メッセージを要約すると「人と人が出会うことは奇跡・・・お互いがお互いを思い助け合って、このメッセージを友人から友人へと伝え、友好の輪を拡げていけたらいいですね。」といった主旨でした。そして、メッセージにはメロディーが添えられていました。

学生全体に伝えたところ、「お互いの助け合いによって国を超えた関係を築くことができたことはうれしい」といった反応で、今年は、タイとの友好が深まっていることを感じることもできた1年でした。

今後も、様々な国際交流の場において、東日本大震災での感謝を忘れずに素晴らしい友好関係を築いていきたいと思います。